

『父のふるさと』 秋田往来

三浦衛春風社代表取締役が刊行

一昨年『出版は風まかせ 第二部 秋田往来、第三部 おとほけ社長奮闘記』(四六判288頁・1336円)を刊行した春風社代表取締役の三浦衛(まもる)氏が『父のふるさと』(秋田往来)を刊行した。B6判函入り281頁・2000円。

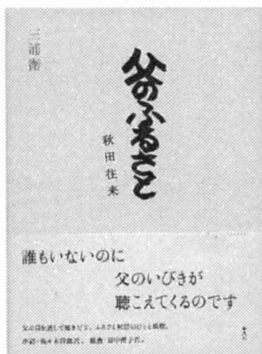
第一部 父のふるさと、

全保障を考えるのを反動だと決めつけるのはうんざりとし、共産主義や社会主義の国々を見て、言論の自由が封殺されている現実には、いかに思うところがある。批判と同時に提案を次々に行なう。

一般に新聞やテレビが批判はさかんに行なうが提案するのを躊躇するのは、日本が左翼内閣派か

会を自由にラジカルに批判する。そして左翼には関心すらない。体制、反体制という枠にも縛られていな。

業、学術書を中心に現在まで約330点を刊行したが、この本では、故郷秋田や家族についての思いや夢、インド旅行記などを収めている。



と秋田の戦前の様子を、心に残る文章である。

は同書の函

原因で片眼を失明した。著者の祖母は、このことを気にしていた。この話を冒頭で紹介し、著者の家族のこ

こうした文章を収めた本書は、付録の乗によると、本文を金属活字による活版で印刷し、上製角背の本体を函の受けと蓋とが一体となった「身と蓋」函に収める造本を行ない、表紙は深い青の「ぬのがみ」を用い、タイトルと著者名、社名を箔押ししている。(写真上)

バックナンバーと次号予告

- ▽12月17日号 36人へのアンケート 二〇一〇年の収獲
- ▽12月24日号 宮台真司・苅部直・渡辺靖(鼎談)「思想・社会・政治を振り返る」(年末回顧総特集号)
- ▽12月31日・1月7日合併号(新年特大号) 東浩紀氏ロングインタビュー「新たな思想の地平へ」

▽1月21日号 森達也・金平茂紀(対談)「弱体化する日本のメディア」『極私的メディア論』の刊行を機に(8頁・定価2600円)